



Japan
Food
Research
Laboratories

第 14038872001-01 号 page 1/4

2014年(平成26年)05月15日

試験報告書

依頼者 株式会社 OLI Lab

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 ラップラ②クン 防錆洗浄剤

表題 抗菌力試験

2014年(平成26年)04月17日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

抗菌力試験

1 依頼者

株式会社 O L I L a b

2 検 体

ラップラ②クン 防錆洗浄剤

3 試験目的

検体の細菌に対する抗菌力を試験する。

4 試験概要

検体溶液にカンピロバクター又は大腸菌(血清型O157:H7, ペロ毒素 I 及びII型産生株)の菌液を接種後(以下「試験液」という。), 室温で保存し, 5分後[大腸菌(血清型O157:H7, ペロ毒素 I 及びII型産生株)は5分及び3時間後]に試験液中の生菌数を測定した。

なお, あらかじめ予備試験を行い, 生菌数の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1及び2に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	濃 度	生菌数 (/mL)	
			開始時*	5分後
カンピロバクター	検 体	10 g/L	4.4×10^6	<100
	対 照	—	4.4×10^6	3.4×10^6

<100：検出せず

保存条件：室温

対照：精製水

* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

表-2 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	濃 度	生菌数 (/mL)		
			開始時*	5分後	3時間後
大腸菌 (O157:H7)	検 体	10 g/L	6.3×10^5	<10	<10
	対 照	—	6.3×10^5	6.6×10^5	6.8×10^5

<10：検出せず

保存条件：室温

対照：精製水

* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

6 試験方法

1) 試験菌

- ① *Campylobacter jejuni* subsp. *jejuni* ATCC 33560 (カンピロバクター)
- ② *Escherichia coli* ATCC 43895 (大腸菌，血清型O157:H7，ベロ毒素 I 及び II 型産生株)

2) 菌数測定用培地及び培養条件

試験菌①

5 %馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2(OX01D)，平板塗抹培養法，
35 °C ± 1 °C，6日間微好気培養

試験菌②

SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]，混積平板培養法，35 °C ± 1 °C，2日間好気培養

3) 試験菌液の調製

試験菌①

試験菌を5%馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2で35℃±1℃、2～3日間微好気培養した後、生理食塩水に浮遊させ、菌数が $10^8 \sim 10^9$ /mLとなるように調製し、試験菌液とした。

試験菌②

試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35℃±1℃、18～24時間好気培養した後、精製水に浮遊させ、菌数が $10^7 \sim 10^8$ /mLとなるように調製し、試験菌液とした。

4) 試験操作

検体溶液(精製水1Lに対して検体10gの割合で添加したもの)10mLに試験菌液を0.1mL接種し、試験液とした。室温で保存し、5分後(試験菌②は5分及び3時間後)に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社]で直ちに10倍に希釈し、試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお、対照として、精製水を用いて同様に試験し、開始時についても生菌数を測定した。

以 上